

気仙沼・波路上に海への森をつくる活動

自然再生活動部会／中村華子

2012年から気仙沼での活動で一緒にさせて頂いている「海への森をつくろう会」。2012年10月に、第1回の植樹祭が500名以上の参加者を得て、盛大に執り行われました。植樹祭の準備や当日の運営など、当会メンバーもお手伝いさせて頂いたことは昨年ご報告の通りです。



植樹した場所の2013年の様子です。
この写真は2013年7月に撮影しました。厳しい冬を乗り越えた苗たちです。みなさん丁寧に植えて下さったので、よく着いてくれたようです。
植樹祭ではこのあたりの海岸に自然に分布する、シロダモ、タブノキ、いくつかのカシ類、ヤブツバキなど暖帯の植物を中心に、ツツジなどの園芸植物も含めて植えました。
大きくなっていくのが楽しみです。

山の自然学クラブ・自然再生活動部会では以前より、富士山での森林復元活動や、御宿での里山保全活動などを行っていますが、これからはこの地域でも森づくりや種子採取、苗の確保、講座の企画など、自然再生活動部会のメンバーを中心に、今後の活動方針を検討していきたいと思えます。

海への森をつくろう会さんの苗畑では、たくさんの苗木が育成されて次の植樹祭を待っています。現地でたくさんの樹種から種子をとって、たくさん発芽してきました。クロマツの苗の寄贈もあったそうです。このビニールハウスでは、とても間に合わない状態になってきて、嬉しい悩みとなっています。これから継続するための方法や活動内容の方向性、労力の確保などこれから考えていらっしゃる必要があるそうです。



(上写真3枚：本吉地区にある海への森をつくろう会育苗ハウスの2013年7月の様子)

2013年に私たちが参加させて頂いた活動の主な内容をご報告します。

2013年4月 共催の現地講座「始めよう！地元学」を開催

講座の詳しい報告は「現地講座の報告」にも掲載しておりますので、ここでは見学内容の詳細は割愛致します。前年よりご指導をお願いしている弘前大学の鎌田先生にお願いして、今年も4月27日～29日に「三陸現地講座」を開催しました。

今年はぜひ地元の方にたくさんご参加頂きたいと思い、海べの森をつくろう会さんにご相談申しあげたところ、3日のうち中間の4月28日を共催で実施させて頂けることになりました。

現地で参加者を募集して頂いたところ、30名近い方の参加申し込みを頂くことができました。当会の参加者でバス一台、日帰り現地参加者で一台+乗り切らない方が自家用車で2台と、たいへん賑やかな見学会となりました。

しかも、みなさんたいへん熱心で、当会の会員も気押されるほどの熱気となりました。参加者の中には海べの森をつくろう会会員のほか、高校の先生、気仙沼市の職員の方、石と賢治のミュージアム職員の方、地元新聞社の方、ネットワークオレンジの職員の方など、様々な方がいらっしゃいました。質問もたくさんあり、鎌田先生は大忙し！の一日でした。

海べの森をつくろう会さんとは、2014年も共催で現地観察会を企画することになっています。見学する内容も地質、地形、植生、植物、海岸の生き物など、様々な内容に広げようとして話し合っているところです。これからも楽しい観察会を実施していきます。

山の自然学クラブ・海べの森をつくろう会 共催現地講座
～始めよう！地元学～ 2013年4月27日～29日 講師：鎌田耕太郎先生

NPO 法人
海べの森をつくろう会
震災を乗り越え、自然豊かな気候の発展を願い活動を続ける団体です。

植樹への思い
私たちは、東日本大震災で被災した、荒涼たる海べの風景に絶望感と無力感に襲われ、現実を直視できませんでした。津波にも負けず木々の存在と、大津波に流された人々の命をつなごうと生かされた木々の存在を知り、次第に将来の復興への確信と共に、美しい海べを取り戻したいとの思いを強くようになりました。また、明治三陸の大津波の災害後、先人たちが被災地に森の木々を植樹し、津波後の復旧に尽力した事実を知り、近々この地域の復興も同じような状況と対峙し、先人たちが命をつなごうと生かされた森が植樹へと繋がったように思われます。先人の震災復興への記録と東日本大震災の教訓から、生かされている事の役割を大きく認識した次第で、私たちも、今、木々を植樹し、そして、自然豊かな気候の発展を目指します。

特定非営利活動法人 海べの森をつくろう会

始めよう！地元学
海べの森の植物観察会
地元の特長ある自然を深く知り体験するための講座です。この地域の第一人者、弘前大学教育学部の鎌田耕太郎先生と一緒に、地質や化石を中心に地元の自然環境の観察をします。津波北上後日本の地質を学ぶ上で「ものさし」となる重要な仕事であり、日本地質学のメッカとも見える場所です。地元の貴重な発見が……、地元を知ることから未来を構つてみましょう。

◇ 日時 2013年4月28日(日) 8時30分～12時30分 ※途中休憩ありにて参加下さい
◇ 集合場所 気仙沼市駅前上 物産所
◇ 行程 気仙沼市駅前上(第一バス)→山田山麓の資料館(道具・情報)→大津波津一貫米の海岸(震災)→7月1日(津波の日)の歴史の地蔵堂の参拝
15:00 物産所(戻車)に到着 お楽しみイベントがあります
◇ 参加費 参加費が2,000円になります。
◇ 申し込み 4月22日(月)までに、メールまたは電話にて、以下にお記入の上、お申し込み下さい
(1)お名前 (2)ご住所 (3)連絡先電話番号(できれば毎日連絡が取れる電話番号も) (4)お申し込みの人数

▶ 海べの森をつくろう会
パンフレットより



4月28日 現地参加のみなさんと、岩井崎での観察
珍しい(と知った?)化石の数々に、興味津々です

2013年10月 植樹祭の準備と種子採取の活動



2013年の植樹祭は10月19日に行われました。私たちはその前に伺って、準備と、最盛期を迎えた種子採取のための「猫の手」になるため、数人でお手伝いに出かけました。

7月には発芽したてで小さかった苗が、ずいぶん育っています。手をかけ、目をかけているため、たいへん元気よく育っているのでしょう。すでに採集したタブ等の種子も播かれるのを待っています。

まずはどんな樹種が実をつけているか、周辺を観察します。徳仙丈などの山では今年はミズナラが豊作です。神奈川などからいらしたボランティアの方々にも参加してもらって、ドングリ拾い隊も組織されました。この日集めたドンクリは、ボランティアのみなさんがお持ち帰りになって、育てて下さることになりました。みなさん、育て方や播き方の説明を熱心に聞いて下さいました。うまく育てて、たくさん里帰りさせて下さることを願います。

そして私たちはさらに、チドリノキなどのカエデ類やヤブツバキ、アオハダなどの木から直接採集する種子を探して、周辺を歩き回りました。偶然通りがかった、近くにお住まいの方が、ご自分の所有地へ案内して下さい、ヤブツバキの実を取らせて下さいました。まとまって採集できる場所は少ないのでたいへん助かりました。この方は現在は少し離れた高台にお住まいで、お天気の良いこの日に、たまたま所有地を見に戻っていらしていらしたのでした。



私たちもこのあたりの二次植生については、まだあまり詳しい訳ではないので、このような種子採取の活動をしながら生育している植物を観察します。特に亜高木、低木類は日頃の観察が大切です。

潮風を直接受けるであろうと思われる場所にもかなり多くの植物が見られました。ガマズミやサクラ類など、花や実が楽しめ、鳥も好きな植物も多く見られました。また、サワグルミやオニグルミ、サンショウなど実用性の高い種も多くありました。

これらは長年かけて人々が残してきたものでもあったと考えられます。

これからは、このような植物をたくさん集め、有用植物の苗を多く用意していくようにもできたらよいのではないかと思います。

「有用植物」といえば。これからの地域のためには、農林業の再生・振興も欠かせません。地域にあった、しかも名産品となるものを生産していかれたらよいな、と海べの森をつくろう会のメンバーとも常々話しています。海べの森をつくろう会さんでは、地域の食材を利用した伝統的な食材の使い方を伝える活動や、食育の活動などにも取り組み始められています。このような楽しい活動もぜひ一緒にしていきたいと考えています。

私たちも少しお手伝いできるかもしれないこととして、果樹への取り組みが考えられると思いました。そこで、近隣で果樹の栽培が盛んな地域、おとなりの陸前高田市へ見学に行ってみました。写真は神田葡萄園。創業明治 38 年、立派な葡萄園です。西洋品種が入ってきたばかりの明治からリンゴ、梨、ブドウの生産をされている、先駆者です。



神田葡萄園のブドウ棚です。ブドウ棚の高さを少し超える高さまで津波で覆われましたが、なんと、このブドウ棚が、流れてきた漂流物を捕捉してワイナリーや倉庫などの建物には浸水以外の被害は大きくなかったそうです。

手塩にかけて育てたブドウ達が守ってくれたのだとお話しされていました。

震災前は、道の駅高田松原内で販売営業していましたが、震災後はこちらに拠点を移して 2011 年 7 月再開。

可愛いデザインの内装です。外装の壁画はたくさんの方が協力して 2012 年に描いたものだそうです。ステキです。



1 階の天井
(矢印) が
津波到達の
概ねの高さ

三陸地域では、夏は“やませ・山背”が吹きます。春～夏にかけて、東北地方の太平洋側では冷たく湿った東よりの風が吹くことがあります。この風のことを「やませ」と呼びます。やませが吹くと沿岸部を中心に気温が下がって霧が発生しやすくなり、長引くと、低温と日照不足によって、水稻などの農作物に被害を及ぼすことが知られています。海沿いは一年を通して強風が吹きますので、それにも耐えられるような種類や育て方を考える必要もあります。

近隣の地域の実例や、現地の様々な状況を考慮しながら、これからの活動を検討し、企画をしていきたいと思えます。

2013年4月29日 気仙沼大島にて

2013年4月の現地講座で訪れた気仙沼大島。参加者全員で椿まつり最終日を迎えた、中山農場「椿の杜公園」を訪問しました。ボランティアのみなさんが植樹祭の準備中です。



椿の杜公園は、代表の小野寺さんが、地域振興のため多くの方が訪れてくれるような公園を作ろうと、各地から取り寄せた様々なツバキが植えられています。白やピンクのものなど、様々な珍しい品種の椿がたくさん育てられ、美しい花を咲かせていました。見事です。



ボランティアの方々が植えたハーブなども栽培中。みなさん、何度もいらして下さっているそうです。

椿祭りの開催でお忙しい中、時間を割いてお話し下さった小野寺さん。情熱あふれるお話を伺うことができ、一同心を熱くしました。ありがとうございます。

2013年10月 講座見学地の下見を兼ねて



左写真：碁石海岸



右写真：釜石鉱山

碁石海岸は大船渡湾の南に突き出た末崎半島の先端 12 km の海岸。ジオサイトにもなっている美しい海岸です。釜石鉱山は 2007 年に近代化産業遺産に認定。「鉄の町」釜石を、日本の製鉄を百年以上にわたって支えてきました。次回以降の現地講座でぜひ訪れたいと思えます。

海べの森をつくろう会さんは、2013年3月に特定非営利活動法人となりました。これからも少しずつではありますが、当会としても一緒に活動させて頂けたらと考えております。

たくさんの方のみなさまのご参加、ご協力をお待ちしています。